

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		多様な主体が交流し、つながりが生まれるような「場づくり」	豊中市
アイデア名(注2) (公開)	庄内商店街を盛り上げたい！「音大生による音楽講座」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	大阪音楽大学グループ！	
チーム属性(公開)	● 2. 学生によるチーム	
メンバー数(公開)	5名	
代表者情報	氏名(公開)	下村祐仁
メンバー情報		上山和奏、菅彩乃、吉川さくら、松倉佑衣

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

「音楽による地域の活性化」

→地域の人たちが身近にあるコンサートホールに足を運びやすい仕掛けを商店街内の空き家につくり、音楽活動することで音大生と市民の関係性を深める。地域の人クラシック音楽やオペラを身近に感じてもらうことで、より心を豊かにしたり、地域で気軽に音楽を楽しんでもらう。また、そういった環境を整えていくことで最終的に音楽家が住みやすい街になる。

<解決アイデアの内容>

大阪音楽生が音楽講座！？

豊中市が商店街内にリノベーションをおこなった拠点『とよなか地域創生塾庄内拠点』で無料音楽講座を開講する。

豊中市はこれまで様々な音楽にまつわる取り組みが行われ、平成27年には「文化芸術創造都市」として文化庁長官表彰を受けている。その中心的な拠点の一つとして庄内地域にある大阪音楽大学が所有する「ザ・カレッジ・オペラハウス」と「ミレニアムホール」の二つのホールが上げられる。この2つの拠点を使ったコンサートに地域の方々が参加しやすくなる環境を整える上で、学生と地域の関係性を深め、地域住民と芸術音楽の身近な入り口として『とよなか地域創生塾庄内拠点』を活用するものである。

ザ・カレッジ・オペラハウスは756席を所持しているホールで、大阪音楽大学定期演奏会、合唱の授業での発表会など、学校関係の演奏会でも多々使用される。それだけでなく、実際にピアニストなどのゲストを招きリサイタルを行うほか外部のコンクール会場にも頻繁に使われている。





また、ミレニアムホールは302席の座席数を持ち、在学生であれば無料で使用することができるため、授業の発表会から自主公演等様々な場面で使用されている。

### ○企画内容

カレッジオペラハウス、ミレニアムホールなどでは頻りに音大生を中心としたクラシック音楽やオペラの有料、無料のイベントが行われているが、より地域の人たちにそういった取り組みを身近に感じてもらい来やすくする仕掛けとして、商店街内の空き家を利用する。そこで自主公演のプレイベントや、コンサートで披露する曲についての時代背景など、生徒が庄内地域の住民に音楽講座を開く。音楽講座では、一時間程度のを月に一回大阪音楽大学の学生有志を講師として招き行う。

#### (例) MANMA MIA!を深く知る公開講座

大阪音楽大学の学生有志の劇団調(しらべ)は、2018年9月22日に自主公演ミュージカル『MAMMA MIA!』をミレニアムホールにて公演をおこなった。マンマ・ミーア!(Mamma Mia!)は、ジュークボックス・ミュージックの代表作の一つ。イギリスの劇作家キャサリン・ジョンソンがABBAの曲を基にして脚本を執筆した。

この公演に合わせて、時代背景とともに大阪音楽大学の学生とミュージカルについて学ぶ講座などを開催する。

【実施時間帯】平日15時～16時(買い物帰りの高齢者や主婦を対象とする)

#### 【実施内容】

1. MANMA MIA!の時代背景
2. ミュージカルの歴史
3. 実際に演奏される音楽のデモンストレーション演奏 など



**(2) アイデアの理由（公開）**

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください

い。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

#### ○市民ニーズとしての大阪音大との関係性について

豊中市南部地域活性化構想(2018 豊中市)によると「南部地域における（仮称）南部コラボセンター基本構想 策定に向け実施したワークショップ」と「豊中市南部地域活性化構想策定に向け実施したワークショップ」で“わたしたちが思い描くまち“(にぎわいとゆとり)については以下のようなキーワードが上げられている。



【豊中市南部地域活性化構想(2018 豊中市) より】

市民の意見として「大阪音楽大学」の学生を中心とした音楽を使ったまちのにぎわいに対して、まちの将来像を描く市民の声があることがあるほか、若者を中心としたまちづくりが求められている。

#### ○音大生の地域との関係性について

一方、「南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ」(とよなか都市創造研究所研究報告書 2017. 3)においては大阪音大の学生を調査した結果では以下のようにまとめられている。

<b>居住</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外の実家暮らしが中心。通学には庄内駅を利用</li> </ul>
<b>消費</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食は弁当持参が多く、地域の店舗を利用することは少ない</li> <li>・コンビニを除いて地域の店舗はあまり利用されていない</li> <li>・地域内の店舗利用が多い学生は地域への関心が高い</li> <li>・地域内の遊びはカラオケ利用が中心</li> <li>・地域外の遊びは梅田での買い物、食事、カフェなどが中心</li> <li>・友達と一緒に過ごせる場、一人の時間をもてる場が選好されている</li> </ul>
<b>地域イメージ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治安や安全への否定的なイメージが多い</li> <li>・地域内の店舗や「レトロ」な雰囲気に対しては肯定的なイメージが含まれる</li> </ul>

消費項目において、地域の店舗を利用することが少ないものの、一部の学生については地域への関心が高く、また「大学が行なっている地域での活動に、あなたは積極的に参加してみたいと思いますか？」という問いについては、積極的な参加意欲は比較的高い(思う：52.3%)。そのため何かきっかけがあれば、地域との関係性を築くことに対するニーズは高いと考えられる。

このような状況の中で、市民、学生双方ともにきっかけがあれば、お互いが交流できる可能性を持っていることがわかり、今回このアイデアを提案した。学生にとっては自分たちが演奏会のプレイベントとして利用できる。また自分たちの自主公演の広報ともして活動でき、幅が広がるのではないかと考えた。ほか、そういったニーズが地域住民からも、行政からも求められているのである。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

### ○ヒト・モノ・カネについて

これまで大阪音楽大学では、公演の質を高めたり、技術的な向上が指導されてきたが、地域との関係性を深め、地域社会にその音楽を伝えるような取り組みは十分になされてこなかった。そこで3年前に設立された大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻が主体的に企画運営を進めることで、より市民に音大の活動を知ってもらい、音楽の面白さを分かりやすく伝える。またそのような取り組みを継続的に行うことで、地域社会と大学が密接に関わり「市民が気軽に音楽にふれる街」であると同時に「音楽家にとっても住みよい街」となっていくことを目指す。

お金の面に関しても学生が無料で行うため最小限で良いものとする。

### ○進め方○

自主公演などを行なっている団体や門下の先生へ直接インタビューを行い、そこで実際にしたい内容などを決めていく。その話し合い後企画書を作成。曲目や年代を決めることで、配分時間を決める。

1. 自主公演や発表会の顧問、代表者にアポを取り打ち合わせを行う。
2. 自分たちがどの年代、どのような企画にしたいのかを話し合い企画書を作成する。
3. 広報活動を実際に商店街、小学校などにチラシをおく。
4. 実際に講義を行う時期や内容などを決める。

繰り返し講座を行うことで、地域住民の興味を深めることができれば、個人的な関係性を築く中で、地域のコンサートの宣伝だけでなく、自分たちが出演する庄内以外の地域や豊中市立文化芸術センターなどのコンサートの宣伝もできるようになる。

数年後に、地域への理解と深い関係性の中で、音楽家が常に滞留することで相互交流が進み、やがて学生や音楽家にとって住みやすい街となり、自分たちの音楽活動も行いやすくなる。